



Introducing my town

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県龍ヶ崎市です。龍ヶ崎支店長 生田目均が龍ヶ崎市長 中山一生氏にお話を伺いました。

スポーツ界で活躍する スーパースターが生まれるまち

本市を代表するスポーツ選手の一人に、ボルダリングの野口啓代選手がいます。野口選手は、ワールドカップで年間総合優勝を4回も獲得している世界的に有名な選手で、2020オリンピック東京大会の日本代表にも内定しています。

本市は、野口選手を支援するため、1年間、龍ヶ崎市総合体育館「たつこのアリーナ」の仮設ウォールをお貸ししました。高さ15mの壁をあっという間に登っていく姿は圧巻で、多くの市民の刺激になったと思います。オリンピック本番では、本市一丸となって野口選手を応援します。

また、本市出身のスポーツ選手に、オランダのサッカーチーム「PECズヴォレ」に所属する中山

雄太選手がいます。中山選手も2020オリンピック東京大会の日本代表候補として有力な方で、今後のさらなる活躍を期待しています。

本市出身のオリンピック選手といえば、1964年の東京オリンピック柔道競技の金メダリスト、岡野功氏がいます。岡野氏は本市の名誉市民で、現在は流通経済大学の名誉教授として、また柔道部の師範として、学生の指導を続けています。

市内に所在する流通経済大学は、サッカー、野球、ラグビー、柔道などのスポーツで優秀な成績を収めた選手を多数輩出しています。特に、サッカー界では、同大学出身のJリーガーが多数現役で活躍するなど、抜きん出た存在です。

野球では2018年に「北海道日本ハムファイターズ」に入団した生田目翼選手が有名ですが、偶然にも生田目支店長の甥御さんだとお聞きしました。ぜひ頑張ってもらいたいと思います。



龍ヶ崎市長 中山 一生氏

そのほか、アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロとオリンピック4大会に出場したトライアスロンの田山寛豪氏やラグビー日本代表として2019年のワールドカップで活躍した中島イシレリ選手も流通経済大学出身です。中島選手は現在トップリーグ「神戸製鋼コベルコスティーラーズ」で活躍しています。こうした選手たちが活躍する姿を見るたび、大変誇らしい気持ちになります。

また、本市は2020オリンピック東京大会において、キューバ共和国柔道競技、タイ王国陸上競技、フィジー共和国・グアム・バヌアツ共和国などのオセアニア地域の柔道競技の事前キャンプが予定されています(取材以降、アメリカ合衆国柔道競技も追加)。これらのキャンプ地招致は、同大学のネットワークにより実現したものです。

ところで、本市には昔から姉妹都市がありません。今後、ホストタウンとして受け入れる国や地域との間に絆が生まれてくると思います。これを好機と捉えて積極的に交流し合うことで、姉妹都市という未来に誇れる「レガシー」を作り、市民の満足度の向上と本市の発展に寄与していきたいと考えています。

「スポーツ^{けんこう}健康日本一」を目指した 様々なプログラムを実施

本市は2007年に「スポーツ健康都市宣言」を行い、2017年には本市の重点目標の一つとして「スポーツ健康日本一」を掲げ、市民誰もがスポーツを通じて健康的な生活を送れるまちを目指しています。

また、「けんこう」の「こう」に「幸」という字を使っているのは、高齢化の進む地域で、出来るだけ多くの高齢者に健康づくりに取り組んでいただいて、健やかに幸せに長生きしてほしいという、いわゆる介護予防としての一面もあります。

その施策の1つとして、旧市街地に「まいん『健幸』サポートセンター」を開設しました。スポーツクラブ「ルネサンス」さんにご協力いただき、日替わりでヨガやストレッチ、エアロビクス、ポールトレーニングのほか健康生活講座(講義)など、様々なプログラムを実施しています。これが予想以上に好評で、多くの方にご利用いただいています。

しかし、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の影響で、多くの方が一箇所に集まるのが難しい状況が続いています。そうした中でも、コミュニティセンターでのリハビリ体操指導をはじめ、ボランティアの方々がりスクの低い形で介護予防に取り組んでくださっていて、本当に頭の下がる思いです。

100年先につながる 「感幸^{かんこう}地づくり」を目指して

2018年、本市は、貴重な地域資源「牛久沼」を市民の憩いの場、また来訪者にとって魅力的な目的地になることを目指し、「牛久沼『感幸地』構想(龍ヶ崎市牛久沼活用構想)」を策定しました。

新型コロナの拡大を機に、キャンプなどアウトドアが流行しています。牛久沼にはキャンプを楽しむスペースがあり、最近では「おひとり様キャンプ」を楽しむ方も見かけます。

今後、牛久沼を名所化するために、キャンプをはじめ、サイクリングやハイキングなど周遊できる場所と仕組みを構築し、100年先につながる「感幸地」へと成長させていきたいと考えています。



美しい自然が残る牛久沼

先人が残した歴史と文化を 次の世代につなげる

私が国会議員の秘書だった時、赤坂の繁華街の中にあつた民芸品店の中に、「龍ヶ崎とんび凧」が展示されており、大変驚いたことがあります。

龍ヶ崎とんび凧は、明治末期に市内の凧職人・岡野源兵衛氏によって生み出された郷土凧です。独特の形状による安定した浮力や鮮やかな絵柄が特徴で、最盛期には年間1万枚を売上げました。

後継者は途絶えてしまいましたが、これまで培われた技術と伝統を継承するため、有志が「龍ヶ崎とんび凧研究会」を発足させています。正月に開催する「凧揚げ大会」などを通して、龍ヶ崎とんび凧の魅力を発信し、伝統継承にご尽力いただいていますので、本市も全面的に支援し、先人が残した貴重な遺産を次の世代につなげていきたいと考えています。

本市には、国指定重要文化財が2つあります。その1つが来迎院の「多宝塔」という室町時代に建てられた建造物、もう1つは道元禅師が中国から持ち帰り、



市長室に飾られた「龍ヶ崎とんび凧」

筑波銀行への期待

筑波銀行は龍ヶ崎市で長い歴史を持たれている銀行です。指定金融機関としての役割を果たしていただいているほか、市民にとっても大切な金融機関ですので、今後とも、ぜひ使命を果たしていただきたいと思っています。

また、まちづくりに対しても様々な形でお力添えをいただいております。イベント一つとっても、様々な工夫をさせていただき、市民の皆さんも大変喜ばれています。

現在、市政の中で注目されているところが、旧筑波銀行跡地です。関東鉄道竜ヶ崎線の竜ヶ崎駅からも近くで大変良い場所ですので、短期的にはイベントなどを開催できるスペースとして活用し、賑わいを創出したいと考えています。

今後も引き続き、本市のまちづくりを応援していただければ幸いです。

新田義貞が所蔵していたという伝説を残す絵画「絹本著色十六羅漢像」です。

この絵画は、素材に絹が使用された貴重なものであり、茨城県立歴史館で大切に保管されています。そのため、市民の皆さんであっても、普段、この絵画を目にすることは大変難しいのですが、数年前、「茨城の宝展」という展示会で十六幅が2度に分けて展示されました。

その際、大変すばらしい画風に感銘を受け、本市では数年前から模写による複製を委託しています。今年度には完成予定で、本市の歴史民俗資料館で展示する計画です。展示後は、重要文化財という由緒ある絵画を子どもたちに楽しく見てもらう工夫もしていきたいと考えています。

また、牛久沼のそばを通る水戸街道(陸前浜街道)沿いに、宿場町の面影が残る若柴宿という場所があり、その中に金龍寺という由緒あるお寺があります。かつて「絹本著色十六羅漢像」は、そのお寺に収められていました。

昔は、御本堂の中で十六幅の絵画を虫干ししていたといいます。今後、季節の良い時期を見計らって、十六幅の絵画が金龍寺御本堂へ一時的に“里帰り”する企画も良いのではないのでしょうか。また、宿場町の趣深いまち並みを活かして、お散歩モデルコースに組み入れたり、健康づくりと繋げた“歴史散策×健康づくり”「健幸ウォーキングマップ」を作成しています。

今後、市内外から多くの方に訪れていただくための取り組みを進めてまいりますので、ぜひ皆さんにもお立ち寄りいただければと思います。



取材日：2021年3月19日